

IBM Cognos Analytic Server
バージョン 10.1.0

操作コンソール・ガイド

IBM

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

このマニュアルは IBM Cognos Express バージョン 10.1.0 に適用され、以降のリリースにも適用される可能性があります。このマニュアルの新しいバージョンを確認するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは Microsoft の許可を得て使用しています。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Analytic Server
Version 10.1.0
Operations Console Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2012.

目次

はじめに	v
第 1 章 ICAS 操作コンソールの機能	1
第 2 章 ICAS 操作コンソールのインストール	3
ICAS 操作コンソールに付属の Apache Tomcat の使用	4
JRE 鍵ストアへの証明書の追加	4
Apache Tomcat の提供バージョンとの ICAS 操作コンソールの配備	5
ICAS 操作コンソール用のユーザー・グループの作成	5
OpsConfig.xml ファイルの編集	6
ICAS 操作コンソール用の Microsoft Internet Explorer 8 の設定	7
ICAS 操作コンソールの開始およびそれへのログイン	7
独自のバージョンの Apache Tomcat の使用	8
JRE ユーザー環境変数の確認	8
JRE 鍵ストアへの証明書の追加	8
ICAS 操作コンソールの配備	9
ICAS 操作コンソール用のユーザー・グループの作成	10
OpsConfig.xml ファイルの編集	11
ICAS 操作コンソール用の Microsoft Internet Explorer 8 の設定	12
ICAS 操作コンソールの開始およびそれへのログイン	12
Websphere 7.0 および 8.0 の使用	13
Websphere 証明書のインポート	13
ICAS 操作コンソールの Websphere への配備	14
Websphere 上の ICAS 操作コンソールの開始	15
第 3 章 ICAS 操作コンソールの使用	17
ユーザー名の表示	17
モニター用の操作グループの作成	17
管理ホストおよび ICAS サーバーの名前を ICAS 操作コンソールに追加する	18
ログ・ファイルおよびサーバー数値パラメーターの設定	18
設定ファイルのアップロードまたはダウンロード	19
モニター・オプションを使用する動的レポート	19
ヘルス・チェック・インジケーター	20
フィルターの設定	21
ログ・ファイルのスケジュール	21
ログ・ファイルのダウンロード	22
ログ・ファイルの表示	22
付録. ユーザー補助機能	23
キーボード・ショートカット	23
IBM とアクセシビリティ	24
特記事項	25
索引	29

はじめに

このマニュアルは IBM® Cognos® Express® Xcelerator の使用にあたって参照してください。

このマニュアルは、IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールのインストール、設定、および使用に必要な情報を提供します。ICAS 操作コンソールは、ICAS サーバーのアクティビティをモニターするために使用されるオプションのソフトウェア・コンポーネントです。

対象読者

このガイドを使用するには、次の項目を理解している必要があります。

- インストール・タスク
- Web サーバー・ソフトウェア
- Java Runtime Environment (JRE)
- ICAS サーバーの操作

情報の検索

IBM Cognos 製品のマニュアルを Web で入手するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。各言語版のマニュアルもすべて用意されています。リリース・ノートはインフォメーション・センターに直接公開されます。これには、最新の技術情報と APAR へのリンクが含まれます。

ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、または視力の限られた方など、身体の不自由な方に情報技術製品をご使用いただけるように支援します。本製品にはユーザー補助機能が含まれています。ユーザー補助機能については、23 ページの『ユーザー補助機能』を参照してください。

サンプルに関する免責事項

Great Outdoors 社、GO 営業、Great Outdoors 名の変形、およびプランニング・サンプルは、IBM および IBM 顧客のサンプル・アプリケーションを開発するために使用されたサンプル・データの架空の企業運営を表しています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実際の名前、住所、電話番号、または取引額との類似は偶発的なものです。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。無断の複製は禁止されています。

将来予想に関する記述




このマニュアルでは、本製品の現在の機能について説明しています。一部の内容で、現在利用できない項目について言及している可能性があります。これは、将来利用できるようになることを意味するものではありません。そのような内容は、資料、コード、または機能の提供に向けた取り組み、確約、あるいは法律上の義務を意味するものではありません。機能の開発、リリース、時期や機能性は IBM の独自の決定によるものとします。

第 1 章 ICAS 操作コンソールの機能

IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールは、Xcelerator 管理者がログ記録を生成し、複数のサーバー・アクティビティをモニターし、ICAS サーバーを管理するために使用することができるオプション・コンポーネントです。

ICAS 操作コンソールは、TMITop ユーティリティが提供する基本サーバー・モニター機能を提供し、さらに以下のいくつかの重要な付加機能を提供します。

- ICAS 操作コンソールは、複数の ICAS サーバーを同時にモニターできます。
- ヘルス機能により、サーバーの現在の状態についての即時のフィードバックが可能です。
- フィルター処理により、複数のサーバーの特定の状態をハイライトすることができます。
- ソートにより、管理者はどのサーバーが特定の状態にあるかをすぐに識別することができます。
- ICAS 操作コンソールは、スケジュールされたログ記録を使用してオフラインでアクティビティをモニターできます。

ツールバーのタイル・オプション 、、および  を使って、ICAS 操作コンソールで提供される表示をドラッグして編成したり、多種多様な属性とサーバーの状態を使用してレポート作成をカスタマイズしたりできます。また、ICAS 操作コンソールを使用すると、プロセスの識別と終了も簡単に行うことができます。

ICAS 操作コンソールは標準インストールの一部としてインストールされ、Web ブラウザーから実行されます。

第 2 章 ICAS 操作コンソールのインストール

IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールは、Xcelerator 管理者が ICAS Server のアクティビティをモニターし、操作を実行できるようにする Java ベースの Web アプリケーションです。

始める前に

ICAS 操作コンソールは、Xcelerator インストールに付属している Apache Tomcat のバージョンなどの、Java ベースの Web アプリケーション・サーバーに配備されます。独自のバージョンの Apache Tomcat を使用することもできます。どちらの方法でインストールするか決定してください。

ICAS 操作コンソールをインストールする前に、以下を行います。

- Xcelerator 前提ソフトウェアがインストールされていることを確認します。
- ICAS Admin Server およびモニター対象の ICAS サーバーがインストールされており、稼働していることを確認します。
- Xcelerator Architect を開始でき、モニター対象の ICAS Server に管理者としてログオンできることを確認します。
- Apache Tomcat がインストールされ、稼働していることを確認します。

ICAS 操作コンソールは、インストール中にデフォルトで選択されています。標準インストール中はこれを選択解除し、別のコンピューターでインストールを実行し、ICAS 操作コンソールだけを選択することにより、ICAS サーバー用に使用するコンピューターとは別のコンピューターにインストールすることもできます。

手順

1. インストール場所からインストールを実行します。
2. 「Web アプリケーション層」 > 「ICAS 操作コンソール」 コンポーネントを選択しインストールします。

要確認: ASCII 文字だけで構成されるパス名を持つディレクトリーに Xcelerator コンポーネントをインストールします。一部の Windows Web サーバーでは、ディレクトリー名に ASCII 以外の文字を使用することができません。

次のタスク

ICAS 操作コンソールと一緒に使用する Web サーバー・ソフトウェアの指示に従ってください。

- 4 ページの『ICAS 操作コンソールに付属の Apache Tomcat の使用』
- 8 ページの『独自のバージョンの Apache Tomcat の使用』
- 13 ページの『Websphere 7.0 および 8.0 の使用』

ICAS 操作コンソールに付属の Apache Tomcat の使用

Xcelerator に付属の Apache Tomcat のバージョンを使用する場合、以下の手順に従って ICAS 操作コンソールをインストールしてください。

JRE 鍵ストアへの証明書の追加

IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールでは、Java ランタイム環境 (JRE) 鍵ストアに証明書が必要です。

手順

1. Java keytool コマンドを実行して、証明書を鍵ストアにインポートします。
 - a. コマンド・プロンプトを開き、次のディレクトリーに変更します。

```
<location> \bin\jre\6.0\bin
```

<location> は、Xcelerator がインストールされているファイル・ディレクトリーです。

注意:

64 ビット・コンピューターの場合、必ず bin64 フォルダーに証明書を追加してください。

- b. 次のコマンド行を実行します。次に示すコマンドはフォーマットのために改行されていますが、実際にはコマンドすべてを 1 行で入力してください。

```
keytool -import -file "C:\<location>\bin\ssl\applixca.pem"  
-keystore "C:\<location>\bin\jre\6.0\lib\security\cacerts"  
-storepass "changeit"
```

64 ビット・インストール環境の場合、証明書を扱う際には 64 ビットのフォルダーがターゲットになります。例えば、このサンプル・コマンドは 64 ビット JRE をターゲットとするものです。

```
cd C:\Program Files (x86)\ibm\cognos\TM1_64\bin64\jre\6.0\bin
```

次のコマンドは 64 ビット・システムで使用される例です。ここに示すコマンドはフォーマットのために改行されていますが、実際にはコマンドすべてを 1 行で入力してください。

```
keytool -import -file "C:\Program Files (x86)\ibm\cognos\TM1_64\bin64\  
ssl\applixca.pem" -keystore "C:\Program Files (x86)\ibm\cognos\TM1_64\bin64\  
jre\6.0\lib\security\cacerts" -storepass "changeit"
```

64 ビット・インストール環境を実行する際に、証明書用の 64 ビットの場所が正しくターゲットとして指定されていない場合、サーバーに接続できないという警告メッセージを受け取るようになります。

- c. 証明書を信頼して追加するかどうかを尋ねるプロンプトが出されたら、yes と入力します。

「鍵ストアに証明書が追加されました」というメッセージが表示されます。

2. 変更を有効にするには、Apache Tomcat を再始動することが必要な場合があります。

要確認: Xcelerator を再インストールするたびに、証明書を再追加してください。

Apache Tomcat の提供バージョンとの ICAS 操作コンソールの 配備

IBM Cognos Configuration ツールを使用して、Xcelerator インストールで提供される Apache Tomcat のバージョンと共に IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールを配備します。ICAS 操作コンソールは、IBM Cognos Xcelerator Application Server と同じバージョンの Tomcat を使用します。

始める前に

Microsoft Windows Vista、Windows 7、または Windows 2008 オペレーティング・システム・ソフトウェアを実行するコンピューターで、Program Files (x86) ディレクトリーから製品をインストールする場合は、IBM Cognos Configuration を管理者として開始します。

手順

1. 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM Cognos Xcelerator」 > 「IBM Cognos Configuration」をクリックします。
2. 「Planner アプリケーション」を右クリックし、「開始」をクリックします。

このステップによって、Xcelerator で提供されているバージョンの Tomcat が開始され、ICAS 操作コンソールが自動的に配備されます。

3. 「ファイル」 > 「保存」とクリックして構成データを保存します。
4. 「ファイル」 > 「終了」とクリックして、Cognos Configuration を閉じます。

ICAS 操作コンソール用のユーザー・グループの作成

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールでは、Architect で作成する、指定の ICAS ユーザー・グループが必要です。

手順

1. Express Architect を実行します。

要確認: ICAS Admin サーバーとモニターするサーバーがまだ開始されていない場合、Cognos TM1[®] Express Architect を実行する前に Configuration を使用して開始してください。

2. Express Architect で、「Xcelerator」をダブルクリックして、実行されていて使用可能なサーバーを表示します。
3. モニターするサーバーをダブルクリックし、そのサーバーのためのユーザー名とパスワードでログインします。
4. そのサーバーを右クリックし、「セキュリティ」 > 「クライアントとグループ」を選択して、ICAS 操作コンソール専用の新しいユーザー・グループを追加します。
5. 「グループ」 > 「新規グループの追加」を選択し、monitor などの ICAS 操作コンソール・グループの識別を容易にするグループ名を入力します。

今追加した新しいグループを見るには、ウィンドウをスクロールすることが必要な場合があります。

6. 「OK」をクリックします。
7. 新しいグループにユーザーを追加するには、以下の手順に従います。

こうして追加したユーザーだけが ICAS 操作コンソールにログインできるようになります。

- 管理者タイプのユーザーの場合、新しいグループと共に組み込みの SecurityAdmin グループまたは ADMIN グループ、あるいはその両方に追加します。
- モニターするユーザーを標準ユーザーにする場合、そのユーザーを新しいグループと ICAS の DataAdmin グループに追加します。

ICAS でセキュリティー・グループを割り当てることについて詳しくは、「*IBM Cognos Express Xcelerator 操作ガイド*」を参照してください。

8. 「OK」をクリックして、Server Explorer に戻ります。Express Architect を閉じることができます。

OpsConfig.xml ファイルの編集

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールは、XML ファイルによって、使用するユーザー・グループ、サーバー、管理ホストを識別します。ICAS 操作コンソールを実行するには、その前に、モニターする新しいグループに関する情報を使ってこの設定ファイルを更新することが必要です。

始める前に

Express Architect で、ICAS 操作コンソール専用の指定されたユーザー・グループを追加し設定したことを確かめます。

手順

1. XML またはテキスト・エディターを使用して、OpsConfig.xml ファイルを編集します。
 - Xcelerator インストールで提供される Apache Tomcat の場合、このファイルがあるのは次の場所です。

```
ICAS_location\webapps\tm\operationsconsole\WEB-INF\configuration
```

- 独自のバージョンの Apache Tomcat を使用する場合、このファイルがあるのは次の場所です。

```
C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat  
6.0\webapps\tm\operationsconsole\WEB-INF\configuration
```

2. 管理ホスト、サーバー、およびグループ名について OpsConfig.xml ファイルを更新します。

次のサンプル OpsConfig.xml ファイルは、"monitor" という名前のユーザー・グループを使い、ローカル・コンピューター上で実行される sdata というサンプル ICAS サーバー用に設定されています。

```
<ops>
  <adminhost name="localhost">
    <server name = "sdata">
      <group>monitor</group>
    </server>
  </adminhost>
</ops>
```

3. OpsConfig.xml ファイルを保存して閉じます。

ICAS 操作コンソール用の Microsoft Internet Explorer 8 の設定

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールと共に Microsoft Internet Explorer 8 Web ブラウザーを使用するには、いくつかの追加の設定を行う必要があります。

手順

1. Internet Explorer 8 で、Web ページにアクセスするごとに最新表示をするオプションを有効にします。
2. スクリプト・デバッグのためのオプションは無効にします。

詳細は、Microsoft Internet Explorer の資料を参照してください。

ICAS 操作コンソールの開始およびそれへのログイン

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールを実行するには、このコンポーネントのポートとサーバー名を識別する URL を入力します。

手順

1. Web ブラウザーで、以下の Web アドレスを入力します。

```
http://server_name:port_number/tm1operationsconsole
```

説明

- *server_name* は、 ICAS 操作コンソールおよび Web アプリケーション・サーバーがインストールされているコンピューターです。

ヒント: ICAS Application Web を実行している Web サーバーに現在ログオンしている場合、キーワード localhost を使用することができます。そうでない場合は、アプリケーションをホスティングする Web サーバーのマシン名、ドメイン名、または IP アドレスを使用できます。

- *port_number* は、Web アプリケーション・サーバーが稼働しているポート番号です。 ICAS インストールに付属の Apache Tomcat のバージョンの場合、デフォルトのポート番号は 9510 です。

ヒント: 別のバージョンの Apache Tomcat の場合、C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 6.0\conf\ の場所にある Apache Tomcat の server.xml ファイルを開いて、ご使用のバージョンの Tomcat が使用するポート設定を判別してください。

2. ログオン・ページで、以下のフィールドに値を入力してから、「**ログオン**」をクリックします。
 - **ICAS 管理ホスト**

- サーバー名
- グループ名
- ユーザー名
- パスワード名

ヒント: No server specified in OpsConfig.xml というエラー・メッセージを受け取ったら、以下をチェックします。

- OpsConfig.xml ファイルで設定した ICAS サーバーが稼働していることを確認します。
- ICAS 操作コンソールの Java Runtime Environment (JRE) 鍵ストアに証明書を追加するステップを実行済みであることを確認します。
- ICAS 操作コンソール・ユーザー・グループの名前を正確に OpsConfig.xml ファイルに入力したことを確認します。

ICAS 操作コンソールの使用を開始するには、17 ページの『第 3 章 ICAS 操作コンソールの使用』を参照してください。

独自のバージョンの Apache Tomcat の使用

独自のバージョンの Apache Tomcat を使用する場合、以下の手順に従ってください。

JRE ユーザー環境変数の確認

ICAS 操作コンソールには、classpath ユーザー環境変数の設定が必要です。

Apache Tomcat の独自のインストール環境を使用する場合、JRE パスのための次の Windows ユーザー環境変数があることを確認してください。

- 変数名: classpath
- 変数値: .;C:\Program Files\Java\jre6\bin

Xcelerator インストール環境に付属の Tomcat を使用する場合、この変数は自動的に設定されます。

JRE 鍵ストアへの証明書の追加

IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールでは、Java ランタイム環境 (JRE) 鍵ストアに証明書が必要です。

手順

1. Java keytool コマンドを実行して、証明書を鍵ストアにインポートします。
 - a. コマンド・プロンプトを開き、次のディレクトリーに変更します。

```
<location> \bin\jre\6.0\bin
```

<location> は、Xcelerator がインストールされているファイル・ディレクトリーです。

注意:

64 ビット・コンピュータの場合、必ず **bin64** フォルダに証明書を追加してください。

- b. 次のコマンド行を実行します。次に示すコマンドはフォーマットのために改行されていますが、実際にはコマンドすべてを 1 行で入力してください。

```
keytool -import -file "C:\<location>\bin\ssl\applixca.pem"  
-keystore "C:\<location>\bin\jre\6.0\lib\security\cacerts"  
-storepass "changeit"
```

64 ビット・インストール環境の場合、証明書を扱う際には 64 ビットのフォルダがターゲットになります。例えば、このサンプル・コマンドは 64 ビット JRE をターゲットとするものです。

```
cd C:\Program Files (x86)\ibm\cognos\TM1_64\bin64\jre\6.0\bin
```

次のコマンドは 64 ビット・システムで使用される例です。ここに示すコマンドはフォーマットのために改行されていますが、実際にはコマンドすべてを 1 行で入力してください。

```
keytool -import -file "C:\Program Files (x86)\ibm\cognos\TM1_64\bin64\  
ssl\applixca.pem" -keystore "C:\Program Files (x86)\ibm\cognos\TM1_64\bin64\  
jre\6.0\lib\security\cacerts" -storepass "changeit"
```

64 ビット・インストール環境を実行する際に、証明書用の 64 ビットの場所が正しくターゲットとして指定されていない場合、サーバーに接続できないという警告メッセージを受け取るようになります。

- c. 証明書を信頼して追加するかどうかを尋ねるプロンプトが出されたら、yes と入力します。

「鍵ストアに証明書が追加されました」というメッセージが表示されます。

2. 変更を有効にするには、Apache Tomcat を再始動することが必要な場合があります。

要確認: Xcelerator を再インストールするたびに、証明書を再追加してください。

ICAS 操作コンソールの配備

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールは、使用を開始する前に Apache Tomcat に配備することが必要です。

始める前に

- ICAS 操作コンソールを配備するコンピュータで Apache Tomcat のインスタンスを開始します。
- Apache Tomcat Manager コンソールにアクセスできることを確認します。
- 前に Tomcat Manager を使用したことがなければ、ログインする前に `tomcat-users.xml` ファイルにユーザーとロールを追加します。詳しくは、Apache Tomcat の資料を参照してください。

手順

1. Apache Tomcat が実行されている状態で、「スタート」 > 「プログラム」 > 「Tomcat Manager」とクリックします。Apache Tomcat インスタンスでユーザー名とパスワードが必要とされる場合は、それらを入力します。
2. Tomcat Manager で、「配備」セクションまで下にスクロールし、「WAR ファイルの配備」サブセクションを見つけてみます。

注意:

ICAS 操作コンソールの以前のバージョンが既に配備されている場合、Tomcat Manager で「配備を解除する」オプションを使用して、以前のバージョンの配備を解除します。

3. 「参照」をクリックして、ICAS 操作コンソール Web アプリケーションのアーカイブ・ファイル `tm1operationsconsole.war` を見つけてみます。このファイルの通常の場合は `install_location/webapps/tm1operationsconsole.war` です。
4. 「OK」をクリックします。
5. Tomcat Manager で「配備」をクリックします。

配備が完了したら、ICAS 操作コンソールは、Tomcat Manager の「アプリケーション」セクションに `/tm1operationsconsole` として表示されます。

ICAS 操作コンソール用のユーザー・グループの作成

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールでは、Architect で作成する、指定の ICAS ユーザー・グループが必要です。

手順

1. Express Architect を実行します。

要確認: ICAS Admin サーバーとモニターするサーバーがまだ開始されていない場合、Cognos TM1 Express Architect を実行する前に Configuration を使用して開始してください。

2. Express Architect で、「Xcelerator」をダブルクリックして、実行されていて使用可能なサーバーを表示します。
3. モニターするサーバーをダブルクリックし、そのサーバーのためのユーザー名とパスワードでログインします。
4. そのサーバーを右クリックし、「セキュリティー」 > 「クライアントとグループ」を選択して、ICAS 操作コンソール専用の新しいユーザー・グループを追加します。
5. 「グループ」 > 「新規グループの追加」を選択し、monitor などの ICAS 操作コンソール・グループの識別を容易にするグループ名を入力します。

今追加した新しいグループを見るには、ウィンドウをスクロールすることが必要な場合があります。

6. 「OK」をクリックします。
7. 新しいグループにユーザーを追加するには、以下の手順に従います。

こうして追加したユーザーだけが ICAS 操作コンソールにログインできるようになります。

- 管理者タイプのユーザーの場合、新しいグループと共に組み込みの SecurityAdmin グループまたは ADMIN グループ、あるいはその両方に追加します。
- モニターするユーザーを標準ユーザーにする場合、そのユーザーを新しいグループと ICAS の DataAdmin グループに追加します。

ICAS でセキュリティー・グループを割り当てることについて詳しくは、「*IBM Cognos Express Xcelerator 操作ガイド*」を参照してください。

8. 「OK」をクリックして、Server Explorer に戻ります。Express Architect を閉じることができます。

OpsConfig.xml ファイルの編集

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールは、XML ファイルによって、使用するユーザー・グループ、サーバー、管理ホストを識別します。ICAS 操作コンソールを実行するには、その前に、モニターする新しいグループに関する情報を使ってこの設定ファイルを更新することが必要です。

始める前に

Express Architect で、ICAS 操作コンソール専用の指定されたユーザー・グループを追加し設定したことを確かめます。

手順

1. XML またはテキスト・エディターを使用して、OpsConfig.xml ファイルを編集します。
 - Xcelerator インストールで提供される Apache Tomcat の場合、このファイルがあるのは次の場所です。

```
ICAS_location\webapps\tm\operationsconsole\WEB-INF\configuration
```

- 独自のバージョンの Apache Tomcat を使用する場合、このファイルがあるのは次の場所です。

```
C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat
6.0\webapps\tm\operationsconsole\WEB-INF\configuration
```

2. 管理ホスト、サーバー、およびグループ名について OpsConfig.xml ファイルを更新します。

次のサンプル OpsConfig.xml ファイルは、「monitor」という名前のユーザー・グループを使い、ローカル・コンピューター上で実行される sdata というサンプル ICAS サーバー用に設定されています。

```
<ops>
  <adminhost name="localhost">
    <server name = "sdata">
      <group>monitor</group>
    </server>
  </adminhost>
</ops>
```

3. OpsConfig.xml ファイルを保存して閉じます。

ICAS 操作コンソール用の Microsoft Internet Explorer 8 の設定

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールと共に Microsoft Internet Explorer 8 Web ブラウザーを使用するには、いくつかの追加の設定を行う必要があります。

手順

1. Internet Explorer 8 で、Web ページにアクセスするごとに最新表示をするオプションを有効にします。
2. スクリプト・デバッグのためのオプションは無効にします。

詳細は、Microsoft Internet Explorer の資料を参照してください。

ICAS 操作コンソールの開始およびそれへのログイン

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールを実行するには、このコンポーネントのポートとサーバー名を識別する URL を入力します。

手順

1. Web ブラウザーで、以下の Web アドレスを入力します。

```
http://server_name:port_number/tm1operationsconsole
```

説明

- *server_name* は、 ICAS 操作コンソールおよび Web アプリケーション・サーバーがインストールされているコンピューターです。

ヒント: ICAS Application Web を実行している Web サーバーに現在ログオンしている場合、キーワード `localhost` を使用することができます。そうでない場合は、アプリケーションをホスティングする Web サーバーのマシン名、ドメイン名、または IP アドレスを使用できます。

- *port_number* は、Web アプリケーション・サーバーが稼働しているポート番号です。 ICAS インストールに付属の Apache Tomcat のバージョンの場合、デフォルトのポート番号は 9510 です。

ヒント: 別のバージョンの Apache Tomcat の場合、`C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 6.0\conf\` の場所にある Apache Tomcat の `server.xml` ファイルを開いて、ご使用のバージョンの Tomcat が使用するポート設定を判別してください。

2. ログオン・ページで、以下のフィールドに値を入力してから、「**ログオン**」をクリックします。

- ICAS 管理ホスト
- サーバー名
- グループ名
- ユーザー名
- パスワード名

ヒント: `No server specified in OpsConfig.xml` というエラー・メッセージを受け取ったら、以下をチェックします。

- OpsConfig.xml ファイルで設定した ICAS サーバーが稼働していることを確認します。
- ICAS 操作コンソールの Java Runtime Environment (JRE) 鍵ストアに証明書を追加するステップを実行済みであることを確認します。
- ICAS 操作コンソール・ユーザー・グループの名前を正確に OpsConfig.xml ファイルに入力したことを確認します。

ICAS 操作コンソールの使用を開始するには、17 ページの『第 3 章 ICAS 操作コンソールの使用』を参照してください。

Websphere 7.0 および 8.0 の使用

IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールを Websphere 上にインストールすることができます。

Websphere 証明書のインポート

以下の手順を実行して、IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールを IBM Websphere で実行するために必要な証明書をインポートします。

手順

1. Websphere 管理コンソールを開きます。
2. Websphere 管理コンソールで、「セキュリティ」 > 「SSL 証明書および鍵管理」 「構成設定」と移動して、「エンドポイント・セキュリティ構成の管理」を選択します。
3. セルを取得する適切なアウトバウンド構成を選択して、「ノード」をクリックします。
4. 「関連項目」で、「鍵ストアおよび証明書」をクリックしてから、**NodeDefaultTrustStore** 鍵ストアをクリックします。
5. 「追加プロパティ」で、「署名者証明書」および「ポートからの取得」をクリックします。
6. ICAS 管理設定を定義します。
 - a. **ホスト名:** ICAS 管理サーバーが稼働しているコンピューターの名前を入力します。
 - b. **ポート:** 5498
 - c. **別名:** <このフィールドの別名>
 - d. 「署名者情報の取得」をクリックします。
 - e. 証明書情報が信頼できる証明書のものであることを確認します。
 - f. 「適用」および「保存」をクリックして、マスター構成を保存します。
7. ICAS 管理サーバーのマスター構成を正常に保存した後、同じ画面を使用して、ICAS Server の設定を以下のように定義します。
 - a. **ホスト名:** ICAS が稼働しているコンピューターの名前を入力します。
 - b. **ポート:** このサーバーの tm1s.cfg ファイルでリストされているポート番号を入力します。
 - c. **別名:** <このフィールドの別名>

- d. 「署名者情報の取得」をクリックします。
- e. 証明書情報が信頼できる証明書のものであることを確認します。
- f. 「適用」および「保存」をクリックして、マスター構成を再び保存します。

ICAS 操作コンソールの Websphere への配備

以下の手順を実行して、IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールを IBM Websphere Web サーバー上に配備します。

始める前に

IBM Websphere の使用に関する詳細は、Websphere の資料を参照してください。

配備する前に、Xcelerator のインストール時に ICAS 操作コンソールがインストールされたことを確認してください。ICAS 操作コンソールは、デフォルトで選択される Web アプリケーション・コンポーネントです。まだインストールされていない場合には、インストールを再実行して、ICAS 操作コンソール・コンポーネントだけがインストールされるように選択できます。

インストール後、tm1operations.war ファイルの場所を確認してください。通常は、`C:/<installation_location>/webapps` にあります。

手順

1. Websphere 管理コンソールを開いてログインします。
2. 「アプリケーション」の下の右側のウィンドウで、「新規アプリケーション」> 「新規エンタープライズ・アプリケーション」とクリックします。
3. tm1operationsconsole.war ファイルのアドレスを指定し、「次へ」をクリックします。
4. 「ファスト・パス」を選択してから、「次へ」をクリックします。
5. 「インストール・アプリケーションの選択」で、「次へ」をクリックしてデフォルト設定を受け入れます。
6. 「モジュールのサーバーへのマップ」で、アプリケーションにあるモジュールをインストールするサーバーを選択して、「次へ」をクリックします。
7. 「Web モジュールの仮想ホストをマップ」で、アプリケーションにある Web モジュールをインストールする仮想ホストを指定して、「次へ」をクリックします。
8. 「Web モジュールのコンテキスト・ルートをマップ」で、「コンテキスト・ルート」を /tm1operationsconsole として入力します。
9. 「保存」をクリックして、マスター構成を保存します。
10. Xcelerator にモニターするユーザー・グループを追加します。詳しくは、5 ページの『ICAS 操作コンソール用のユーザー・グループの作成』を参照してください。
11. OpsConfig.xml ファイルを編集します。詳しくは、6 ページの『OpsConfig.xml ファイルの編集』を参照してください。

Websphere 上の ICAS 操作コンソールの開始

証明書を追加し、IBM Cognos Analytic Server (ICAS) 操作コンソールを配備した後に、操作コンソールを Web ブラウザーから開始します。

手順

1. Websphere エンタープライズ・アプリケーションで、tmoperationsconsole.war を確認します。
2. 「開始」をクリックします。
3. Web ブラウザーを開きます。
4. ICAS 操作コンソールの URL (<http://localhost:9080/tmoperationsconsole/> など) を入力します。

第 3 章 ICAS 操作コンソールの使用

インストールおよび設定の後、Web ブラウザーから IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールを実行してください。

初めて使用するとき、組織構造をセットアップして、モニターされるサーバーを識別できるようにする必要があります。

ユーザー名の表示

MaskUserNameInServerTools パラメーターによって、IBM Cognos Analytic Server 操作コンソール画面でユーザー名を表示するのか、マスクをかけるかを決定します。

Tmls.cfg で MaskUserNameInServerTools=TRUE と設定する場合、セキュリティを確保するために、ICAS 操作コンソールではユーザー名にマスクがかけられます。ユーザー名のマスクを解除するには、管理者が ICAS 操作コンソールでサーバーを右クリックし、「認証」をクリックすると、管理者の状況を確認できます。


デフォルトでは、このパラメーターは FALSE に設定されます。このパラメーターを明示的に TRUE に設定しないと、ICAS 操作コンソールには、管理者のアクセス権が検証されていない場合でもユーザー名が表示されます。

モニター用の操作グループの作成

ICAS 操作コンソールを使用して IBM Cognos Analytic Server サーバーをモニターする場合は、その前にモニター対象のサーバーの論理グループを定義します。

例えば、"Development"、"Production"、または "Test" として示されるサーバーのグループがあるかもしれません。

新しい操作グループを追加するには、以下の手順に従います。

1. ツールバーから操作グループ  アイコンをクリックするか、「操作」メニューを使用して「操作グループの追加」を選択します。
2. グループの名前を入力します。
3. 「作成」をクリックします。

グループを作成したら、右クリックするか「操作」ボタンのオプションを使用して、管理ホストと ICAS サーバー名を追加します。

グループの定義後に、ログ・ファイルのオプションを使用して、サーバーのモニター方法を設計します。

管理ホストおよび ICAS サーバーの名前を ICAS 操作コンソールに追加する

IBM Cognos Analytic Server を ICAS 操作コンソールに識別させるために、TM1 Server をデータベース・インスタンスに追加します。

このタスクについて

データベース・インスタンスを追加した後、管理ホストを識別できるようになります。

手順

1. データベース・インスタンスを右クリックし、「管理ホストの追加」を選択します。
2. 管理ホストの完全修飾名を入力します。
3. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

管理ホストが識別されます。管理ホストがツリーに表示されたら、その管理ホストを選択して右クリックし、モニター対象のホストで実行されている ICAS Server の名前を追加することができます。

ログ・ファイルおよびサーバー数値パラメーターの設定

「設定」オプションを使用して、ログ・ファイルの数値およびその他のサーバー・パラメーターをどのように収集するかを定義する数値パラメーターを設定します。

各ログ・ファイルについて、以下のパラメーターを入力します。

ログの期間

更新データをログ・ファイルに書き込む時間間隔を指定します。

例えば、画面の Refresh が 2 秒に設定されている場合に、LogPeriod を 10 秒に設定すると、5 回の画面表示で出力が一度行われることになり、ファイルに書き込まれるデータ量が減ります。 デフォルトは 2 秒です。

ログの追加

デフォルトでは、新規ファイルは追加されません。既存のログを上書きします。 true を選択すると、新規ファイルが既存のログに追加されます。

更新期間

デフォルトでは、ログはデータを更新するまで 2 秒間待機します。デフォルトより短いまたは長い更新時間を秒単位で入力します。

許容範囲の要因

デフォルトでは、データは新規 (0) です。ログのデータが持続することを許可するには、新しいポーリングを要求するまでデータが持続できる時間をここに秒単位で入力します。

タイムアウト


デフォルトでは、サーバーへの接続の試行を 2 秒試行した後に終了します。この数値を変更して、ログが試行を終了するまでに試行を続ける時間の長さを調整することができます。

IBM Cognos Analytic Server 操作コンソール・サーバーがここに指定されている秒数内に更新された状況を取得しない場合、タイムアウトが発生したことを示す指標とともに古いデータ (存在する場合) が送信されます。

設定ファイルのアップロードまたはダウンロード

tm1operationsconsole.xml ファイルに変更を加えるには、「アップロード」および「ダウンロード」オプションを使用できます。

設定ファイルを使用して「IBM Cognos Analytic Server 環境」ウィンドウにデータを入れたら、「アップロード」および「ダウンロード」オプションを使用して、設定に変更を加えることができます。また、これらのコマンドを使って設定ファイルにサンプル・データを組み込むこともできます。

「アップロード」 を選択したら、設定ファイルの場所を参照して、「OK」をクリックします。

「ダウンロード」 を選択して、ローカル・マシンに保存できる XML ファイルとして設定ファイルを表示します。

モニター・オプションを使用する動的レポート

IBM Cognos Analytic Server 操作コンソールの「モニター」オプションは、「フィルター」設定を使用して対象を絞ることができるサーバー・アクティビティの動的更新表示を開きます。

「モニター」オプションは、一般的なステータス、サンドボックス、またはサンドボックス・キューに関する情報を、選択したログ・ファイル・パラメーターに基づいて動的に表示します。これらのウィンドウを結合して、種類の異なるアクティビティを同時にモニターすることもできます。「フィルター」ダイアログ・ボックスを使用して、特定の種類のアクティビティ (例えば、実行状態にあるプロセスのみ) に対象を絞って表示します。

表示されたプロセスがある場合、プロセスを右クリックして「プロセスの強制終了」を選択し、プロセスを強制終了できます。

特定の列で表示をソートするには、矢印を表示させるために列の見出しをクリックします。上矢印は、その列の見出しでソートします。下矢印がデフォルトのソートです。

ヘルス・チェックは、サーバーの状況を即時に示します。

ステータス

「ステータス」選択項目では、デフォルトですべてのステータスを表示し、「ID」、「ユーザー」、「状態」、「関数」、「オブジェクト・ロック・ステータス」、「ユーザーのロック・ステータス」、および「時刻」をリストします。

「スレッド」では、「使用中のスレッド」、「キュー項目数」、「キュー時間の平均」、「デキューのデルタ」、「キュー時間のデルタ」、および「API 呼び出しのデルタ」をモニターできます。

サンドボックス

「サンドボックス」では、デフォルトで「ID」、「ユーザー」、「アクティブなサンドボックス」、「サンドボックス・メモリーの合計」、および「サンドボックスの数」をリストします。

サンドボックス・キュー

「サンドボックス・キュー」では、デフォルトで「ID」、「名前」、「ユーザー」、「ノード名」、「ステータス」、および「キュー内の時間」をリストします。

ヘルス・チェック・インジケータ

ヘルス・チェック・インジケータは、サーバーの状況をほぼ即時にフィードバックします。

使用可能なインジケータについて、以下にまとめます。



オンライン

サーバーはオンライン状態です。このサーバーは稼働しています。



始動中

サーバーは始動中です。



一括ロード・モード

サーバーは一括ロード・モードです。



ビジー

サーバーはビジー状態です。サーバーは始動している、停止している、または一括ロード・モードにある可能性があります。または、サーバーからの応答がありませんでした。



オフライン

サーバーはオフライン状態/接続できない状態です。このサーバーは稼働していないか、 ICAS 操作コンソールに接続できていません。



停止中

サーバーは、停止処理中です。



サポートされない

サーバーはサポートされていません。ヘルス・チェックは、 ICAS 10.1.0 リリースより前のバージョンを実行しているサーバーでは使用できません。

ヘルス・チェックは、サーバー内のスレッドの数と、ロックが付与されるのを待機しているスレッドの数も表示します。

ヘルス状況は 10 秒ごとに更新されるので、サーバーが最後にリフレッシュされてサーバー状況が変更された時点から 10 秒以内の情報が表示されます。

レポートにリフレッシュ・レートが含まれる場合、データはそのレポートに指定されているリフレッシュ・レートで更新されます。

フィルターの設定

「フィルター」ダイアログ・ボックスを使用して、「ステータス」表示に表示されるアクティビティのタイプを絞ることができます。

特定のスレッドまたはその特定の状態によって表示をフィルターに掛けて、アクティビティを迅速に識別できます。

デフォルトでは、すべての状態が「ステータス」表示に表示されます。「アイドル状態」、「実行」、「コミット」、「ロールバック」、「待機」、「ログオン」、および「完了」の選択項目の中から 1 つ以上にチェック・マークを付けて表示する状態を絞ります。

スレッド情報についても、「システム」、「日課」、および「ユーザー・スレッド」で絞ることができます。

レポートの列をソートすると、ビジーであるサーバーを迅速に識別できます。

ログ・ファイルのスケジュール

ログ・ファイルを実行する頻度についてのスケジュールを定義できます。

新規ログ・ファイルのイベントをスケジュールするには、「IBM Cognos Analytic Server 環境」ウィンドウ内のサーバーを右クリックして、「**ログ記録のスケジューラー**」を選択します。

デフォルトでは、ログ記録は「**ログ記録を無効にする**」に設定されています。「**自動ログ記録**」は、モニター・ウィンドウが開いている間その時点で行われているすべてのアクティビティのためのログ・ファイルを生成します。

カスタマイズされたログ記録スケジュールの確認または作成を行うには、「**スケジュールされたログ記録**」をクリックし、ログ記録スケジュールの開始および終了時刻の詳細をダイアログ・ボックスに指定します。

ログ・タイプ

「ステータス」、「サンドボックス」、または「サンドボックス・キュー」を選択します。

個別にログを記録する

デフォルトでは、ステータス、サンドボックス、およびサンドボックス・ステータスの各ログが別々に保守されます。「いいえ」を選択して、これらすべてのログを 1 つの共通のファイルにまとめます。

要確認: 「個別にログを記録する」で「はい」を選択すると、ダウンロードされたログ・オプションによって、ログ・ファイルのタイプが指定されます。「個別にログを記録する」で「いいえ」を選択すると、共通のログ・ファイルがダウンロードされます。

ログ記録の期間

「開始日」、「開始時刻」、「停止日」、および「停止時刻」をクリックして、カレンダーを開きます。カレンダーは、ログを実行する期間を指定するこれらのパラメーターを設定するのに役立ちます。

ログ・イベントをスケジュールした後は、このダイアログ・ボックスを使用してそのログ・イベントの編集または削除を行えます。

ログ・ファイルのダウンロード

「ダウンロード」オプションは、TM1Top 出力に似たテキスト・バージョンのログ・ファイルを生成します。

「ステータス」、「サンドボックス」、または「サンドボックス・キュー」の中からダウンロードするログのタイプを選択します。

ログ・ファイルの表示

「ログの表示」オプションは、ログのコンパクトで静的なスナップショットを提供します。

「ステータス」、「サンドボックス」、または「サンドボックス・キュー」の中から表示するログのタイプを選択します。

付録. ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、または視力の限られた方など、身体の不自由な方に情報技術製品をご使用いただけるように支援します。

キーボード・ショートカット

アプリケーション固有のキーに加えて、Microsoft Windows の標準ナビゲーション・キーが使用されます。

キーボード・ショートカットを使用して、アプリケーション内を移動し、タスクを実行できます。スクリーン・リーダーを使用している場合は、ウィンドウを最大化して、キーボード・ショートカット・テーブルを完全に拡張表示してアクセスできるようにするとよいでしょう。

注: 次のキーボード・ショートカットは、米国の標準キーボードに基づいています。

表 I. キーボード・ショートカット

操作	ショートカット・キー
アクティブなコマンド・ボタンのコマンドを実行する。	Enter
閉じることができるオブジェクトまたはウィンドウを閉じる。	Ctrl+F4
最初のアイテムまたはオブジェクトに移動する; ホームに移動する。	Home
最後のアイテムまたはオブジェクトに移動する; 最後に移動する。	End
アプリケーションの次のウィンドウに進む。	F6
アプリケーションの前のウィンドウに戻る。	Shift+F6
アプリケーション・バーにフォーカスを移動する (青いドット)。	F10
同じレベルのタブ・インデックス順序の次のアイテムに移動する; 最後に到達したら、最初のタブ・インデックスに循環する。	Tab
同じレベルのタブ・インデックス順序の前のアイテムに移動する; 先頭に到達したら、最後のタブ・インデックスに循環する。	Shift+Tab
オン/オフを切り替える。	スペース・バー
次のオプション・ボタンに移動して選択する。	右矢印、下矢印
前のオプション・ボタンに移動して選択する。	上矢印、左矢印
ドロップダウン・リストのコンテンツを開いて表示する。	下矢印

表 1. キーボード・ショートカット (続き)

操作	ショートカット・キー
開いているドロップダウン・リストを閉じる。	Esc
現在のノードの次の選択可能ノードに移動する。選択したノードに下位ノードがあり、それが展開している場合、最初の下位ノードに移動する。	下矢印
前の選択可能ノードに移動する。	上矢印
現在の選択を展開する (展開されていない場合)。ノードが展開されている場合、最初の下位ノードに移動する。	右矢印および正符号
現在の選択を省略する (展開されている場合)。ノードが省略されている場合、現在の選択の上にある親ノードに移動する。	左矢印および負符号
子メニュー項目を展開する。	右矢印
子メニュー項目を省略する。	左矢印
コンテキスト・メニューを開く。	右クリック・キー
開いているコンテキスト・メニューを閉じる。	Esc
スクロールダウンする。	下矢印またはページダウン
スクロールアップする。	上矢印またはページアップ
キャンバス内で同じレベルのタブ・インデックス順序の次のウィジェットに移動する。	Tab
キャンバス内で同じレベルのタブ・インデックス順序の前のウィジェットに移動する。	Shift+Tab
データベース・インスタンスを追加する。	Alt+N
設定ファイルをアップロードする。	Alt+U
設定ファイルをダウンロードする。	Alt+S
上下にタイル表示する。	Alt+Q
左右にタイル表示する。	Alt+W
ボックスでタイル表示する。	Alt+E
ツリーを更新する。	Alt+R

IBM とアクセシビリティ

ユーザー補助機能に対する IBM の取り組みの詳細については、IBM アクセシビリティ・センターを参照してください。

IBM アクセシビリティ・センター(www.ibm.com/able)

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間1623番14号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr
Ottawa, ON K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、TM1、Express、および Cognos は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ 23, 24
キーボード・ショートカット 23

[カ行]

開始 15
ICAS 操作コンソール 7, 12
管理ホスト 18
キーボード・ショートカット
アクセシビリティ 23

[サ行]

サーバー名 18
数値パラメーター 18
設定のアップロード 19
設定のダウンロード 19
操作グループ 17
操作コンソール 1

[ハ行]

配備
ICAS 操作コンソール 5, 9
フィルター 21
ヘルス・チェック 20

[マ行]

モニター 19

[ヤ行]

ユーザー名の表示 17

[ラ行]

ログオン
ICAS 操作コンソール 7, 12
ログのスケジュール 21
ログのダウンロード 22
ログの表示 22

[数字]

64 ビット・システム・コマンド 4, 8

C

classpath 8

I

ICAS 操作コンソール 4, 8, 13, 15, 18
インストール 3
開始 5, 7, 12
証明書の追加 4, 8
ユーザー・グループの作成 5, 10
ログオン 7, 12
Microsoft Internet Explorer 8 7, 12
OpsConfig.xml ファイル 6, 11
ICAS 操作コンソール用のユーザー・グループ 6, 11

M

MaskUserNameInServerTools パラメーター 17

T

TM1 操作コンソール用のユーザー・グループ 5, 10

W

Websphere 13
Websphere 上 13